

I 実践

1 研究主題

豊かな心で、相手や自分を大切にすることを育てる人権教育の在り方

2 主題設定の理由

本校では、「のぞみ大きく、心ゆたかに、たくましく生きる、金沢っ子の育成」を教育目標としている。そのことを具現化するために、「命」「ドンマイ」「ありがとう」を金沢小全体としての合言葉として掲げ、学級や校内にこの合言葉を掲示している。その目標に向け、全校集会や朝の会・帰りの会、学級活動等で、命や思いやりの気持ちの大切さを伝え、人権教育の推進に努めている。

本校の児童は、明るく素直で、相手を思いやる気持ちはあるが、自己中心的な言動をしたり、逆に自分を出せず、自ら行動することに消極的な苦手な児童も見られる。そこで、「命」「ドンマイ」「ありがとう」を意識して様々な活動に取り組むことで、相手を思いやる心や助け合う心を育てながらお互いのよさを認め合う心を育て、自分の良さにも気付くことができるように本主題を設定した。

3 実践内容

(1) お互いのよさや自分のよさを認め合う活動

ア 称賛カードの活用

毎日の生活の中で友達に助けられたことや、友達にしてもらって嬉しかったこと、友達のよいところなどをカード（ありがとうカード、友達のいいところ発見カードなど）に書いて、友達に渡したり教室に掲示したりしている。

イ よさを認め合う場の設定・連絡帳や週案の活用

帰りの会で「今日の頑張ったこと」を発表している。児童だけでなく、教師も褒めることで友達のよさをみつけ、認め合うという意識を高めている。また、連絡帳や週案等を利用し、保護者へも児童一人一人の紹介や頑張ったことを知らせている。

エ 「校長賞」の制定

全職員で、児童のよい行いを認め、賞賛するとともに、友達のよいところや行動を発見した児童を認める手立てを試みている。校長賞として、「学習」「行事」「善行」の3つの部門に分け、該当する児童を全校集会で賞賛した。

(2) 環境づくり

ア こころコーナー（人権コーナー）の設置

中央廊下の壁面を「こころコーナー」として設置している。本校児童が書いた人権に関する作文や人権に関する標語を掲示して、人権への啓発の場としている。

イ 本校の目指す児童像「命、ドンマイ、ありがとう」の掲示

本校の目指す児童像「命、ドンマイ、ありがとう」の言葉を学校内に掲示している。1カ所だけでなく、各教室や複数の箇所に掲示している。また、職員室にも掲示し、この児童像を学校行事に生かすよう全職員で心がけている。そのことで児童と教師の共通の合い言葉とし、日頃から人権に対する意識が高まるように配慮している。

ウ 各学年・学級での取り組み

「友達のいいところ発見カード」や「友達との関わり方カード」などを掲示している。友達のよさに気付いたり、友達を思いやるには具体的にどのようにしたら良いのかが見れるように掲示している。

(3) 人権教育の啓発

12月に人権教育週間を設置し、各学年の発達段階に応じたビデオ教材を視聴し、学年や学級で人権について話し合った。また、話し合っただけで感じたことをメッセージにして用紙に記入した。(本来は9月上旬を予定していたが、コロナ感染症対策による休校措置のため、12月に延期になった。)

4 成果

- (1) 様々な体験活動を通して、友達の良さを知ったり、互いに認め合い・高め合う機会をもつことができ、相手を思いやる気持ちや助け合おうとする心が育ってきている。
- (2) 金沢小児童の合い言葉「命」「ドンマイ」「ありがとう」を児童と教師で共有することができた。また、そのことを普段の学校生活の行事などにも取り入れ、友達の長所や自分のことを大切にすることを考えるきっかけとなり、自分や相手のことを大切にすることが増えている。
- (3) 各学年ごとにテーマを決め、DVDを視聴して話し合うことで、自分の考えでなく、友達の考えも知ることができ、様々な角度で考えられるよい機会になった。

II 今後の課題

- 1 全体的には友達のことを思いやったり、自分のことを大切にしようとする心が育っている。しかし、軽い気持ちで相手のことを考えない行動をしたり、「友達もやっているから。」といい、自分のことを顧みることができない児童も見られる。さらなる目標達成に向け、長期的な取り組みが必要なので、これからも継続的に取り組み、児童の学びを深めていきたい。
- 2 職員も職員研修の充実を図り、自分や相手の命を大切にする人権教育に関する学びを深めていきたい。そして学校が情報を発信することで家庭・地域への啓発を充実させ、学校・家庭・地域がさらに連携を深めながら人権教育に取り組めるように努めていきたい。

III 人権コーナー設置の様子

人権メッセージの掲示



金沢小児童の合い言葉

